朋友（ほうゆう）
第21号
2018（平成30）年
x月xx日発行
発行所
京都市下京区堀川通り花屋町下ル
仏教壮年会連盟広報委員会
題字：理事長　宮南　靖

「朋友」とは、同信のなかま。2008（平成20）年４月の仏教壮年会連盟発足にあたり、仏壮会員が力を合わせ、ともに歩みを進めていこうという願いから名づけられました。

第8回第2連区（中部・北陸）仏教壮年高岡大会報告

「いのちの大切さを次の世代へどう伝えるか」

仏教壮年会連盟理事長　宮南　靖

七夕の日、第8回第2連区（中部・北陸）仏教壮年高岡大会に来賓としてご招待をいただき出席いたしました。前門様ご臨席のもとで開催された大会でしたが、豪雨の影響で参加が叶わなかった方も大勢おられました。大会を楽しみにされていた方々には、非常に残念だったことと思います。

前門様は、ご縁がととのわなければ大会に参加できない、準備万端用意しても天候のためご欠席された方もおられると、「ご縁がととのう」ことの大切さを示されました。また、出席いただけなかった方々のことも心に留めておきたいとのお言葉をいただき、参加者の気持ちが一つになりました。

そして、石浦栄一郎実行委員長肝いりの大会テーマであります「いのちの大切さを次の世代へどう伝えるか」のもと、自死問題に立ち向かわれている竹本了悟講師から「死にたいと思う相手の傍らによりそってぬくもりを与えよう」「私たちの浄土真宗はいのちの大切さを本当によく理解できる教えである」と仏説観無量寿経や金子みすゞの詩を交えてご講演いただきました。

続いて世界遺産五箇山地方に伝わる「五箇山民謡」を、富山県立南砺平高等学校郷土芸能部の皆さんに披露していただきました。「五箇山民謡」は「平家の落人が刀や槍を鋤や鍬に持ち替えて農作に励んだ話」「豊作を祈る農民男女の話」など切ない調べに乗せて表現されており、その見事な瑞々しい歌と踊りに会場から拍手が鳴りやみませんでした。

現在、仏教壮年会連盟では各教区評議員（理事長）に活動が活発な寺院仏壮の実態調査を依頼し、集まった情報を仏壮活動の拡大・充実に向けてまとめ、各教区へお伝えしようと議論しています。調査から見えてきた一例ですが、活動が活発な寺院仏壮は、現会員が次世代層（40代～50代）を誘う際、懇親を深めようとすることを大切しておられますが、それ以上に同じ目的に向かって同じ思いで社会的な活動されているお寺は、世代間交流が活発である実態が見えてきました。

大会長である西岡孝了教務所長は、大会テーマ「いのちの大切さを次の世代へどう伝えるか」を取り上げた理由について、課題の大切さのみならず、課題について話し合いの輪を拡げ、次世代に伝えるということを高校生の伝統芸能継承の姿を重ねて企画されたことを明かしてくださいました。

今大会を通して、今後の仏壮活動を考える我々にとって大きな示唆を与えてくださいましたこと、大会関係者の皆さんに感謝と敬意を表したいと思います。

『岐阜教区仏教壮年会連盟結成40周年記念大会報告』

岐阜教区仏教壮年会連盟理事長
森　久元

岐阜教区仏教壮年会連盟が結成40周年を迎えることができ、諸先輩方がつないできた努力の賜物だと大変嬉しく思います。

ひとえに、朋友の輪が広がっているのは「御同朋の集まりである」と自覚を深めてきた結果だと思います。

しかし、40周年を迎え、今後の課題も見えてきたようにも感じます。

時代を鑑み、お寺のスタンスや、私たちが行っている活動もこのままでいいのか考える必要があり、まだまだ議論する余地があると思います。

答えを見つけるのは（答えはないのかも）容易なことではないですが、短い時間の中で、未来の岐阜教区仏教壮年会を考える素晴らしい機会となりました。

『和歌山教区仏教壮年会連盟結成40周年記念大会報告』

和歌山教区仏教壮年会連盟理事長
道場　雅夫

和歌山教区仏教壮年会連盟は、今年40周年という節目を迎え、6月2日に大会テーマ「『ともに聞き ともに生きる』～新たな始まりで の輪を拡げよう～」のもと、会員340名と来賓39名の方々にご参加をいただき、鷺ノ森別院本堂結成40周年記念大会が催されました。

私たちは、この大会を機縁としてこれまでの歩みを振り返ると共に、浄土真宗のみ教えを受け継ぎ、次世代の方に少しでも正しく分かりやすく伝える為に、年次総会、研修会では、法話やミニコンサート、落語などを取り入れて、朋友の輪を拡げていけたらと思います。

このご縁を機に、さらに50年、60年と続けてまいりたいと思います。

地震や台風、豪雨などで被災された皆さまに
衷心よりお見舞い申しあげます

本年度新規単位登録名簿

2018（平成30）年4月1日～
2018（平成30）年8月31日

登録単位数　2562単位

教区	組名	寺院	単位会名
北海道	札幌	安楽寺	安楽寺仏教壮年会
北海道	十勝	妙法寺	妙法寺仏教壮年会
長野	飯山	西方寺	西方寺仏教壮年会
兵庫	神戸西	順照寺	順照寺仏教壮年会
長野	河西	稱明寺	安茂里小市稱名寺親鸞会
兵庫	阪神東	法専寺	法専寺仏教壮年会
安芸	佐伯奥	教覚寺	教覚寺仏教壮年会
大分	速見	西光寺	西光寺仏教壮年会
佐賀	三根	淳心寺	淳心寺仏教壮年会
佐賀	三根	浄福寺	浄福寺仏教壮年会
佐賀	三根	誓宗寺	誓宗寺仏教壮年会
佐賀	三根	金蔵寺	金蔵寺仏教壮年会
佐賀	三根	妙覚寺	妙覚寺仏教壮年会
佐賀	三根	善龍寺	善龍寺仏教壮年会
佐賀	三根	円城寺	円城寺仏教壮年会
佐賀	三根	開法寺	開法寺仏教壮年会
佐賀	三根	徳音寺	徳音寺仏教壮年会
佐賀	三根	徳常寺	徳常寺仏教壮年会
佐賀	三根	伝称寺	伝称寺仏教壮年会
佐賀	三根	光圓寺	光圓寺仏教壮年会
佐賀	三根	善法寺	善法寺仏教壮年会
佐賀	三根	光楽寺	光楽寺仏教壮年会
佐賀	三根	長泉寺	長泉寺仏教壮年会

浄土真宗本願寺派
仏教壮年会連盟事務局
〒600-8501 京都市下京区堀川通り花屋町下ル 浄土真宗本願寺派宗務所内　TEL：075-371-5181(代)　FAX：075-351-1211
メールアドレス：bussou@hongwanji.or.jp　連盟ホームページ：http://www.hongwanjibussou.jp/

2018(平成30)年度　7月豪雨(西日本豪雨)
備後教区被災状況

備後教区教務所長
備後教区現地緊急災害対策本部長　菅原　順昭

この度の平成30年7月豪雨により、被災されました皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

6月28日から7月8日にかけて、台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨が発生し、甚大な被害が発生しました。

備後教区は、広島県の東部から岡山県の西部に位置し260カ寺が所属します。広島県東部においては、土砂崩れ・河川の氾濫による建物の損壊や、床上・床下浸水、岡山県西部では、河川の氾濫による広範囲の浸水が発生しました。特に倉敷市真備町においては、町の3分の1が水に浸かり、浸水の深さは広い範囲で5メートルを超え、東西3.5キロ、南北1キロに及んでいたと推計されております。

この度の豪雨被害を受け、7月13日、宗派（京都）に「緊急災害対策本部」が設置され、備後教区にも「現地緊急災害対策本部・ボランティアセンター」を設置し、被災情報の収集、災害ボランティアの派遣や、支援物資の運搬等を行っております。

また、被害が特に集中しております倉敷市真備町にも、ご門徒のご厚意により、ご自身の運営される葬儀会館を開放いただき、現地のボランティア拠点を設けることができました。海外からも駆けつけていただき、連日猛暑の中、復旧作業を行っていただいております。

現在、支援に必要な軽トラックを3台、1か月以上にわたり、お借りしております。愛知県から450キロの距離を届けていただいたボランティア、「復旧するまで自由に使え」と、快く車をお貸し頂いた方々、その他支援物資、義援金等、多くの皆さまから物心両面にわたりご支援をいただいておりますこと、本当にありがたく、感謝してもしきれません。

現地では、水に浸かった家財の運搬、床下や壁土等の泥出し、流入物の運搬等については、一定の目途がたってまいりましたが、まだまだ復旧には時間がかかります。

備後教区においても、引き続き支援を続けてまいります、引続きご協力の程お願い申しあげます。

安芸教区被災状況『災害と酷暑の夏』

安芸教区教務所長
安芸教区現地緊急災害対策本部長　安部　惠証

今年の広島は、災害と酷暑の重い夏になりました。7月6日から7日にかけて広島地方を襲った線状降水帯の豪雨は、土石流を引き起こし、広島県内で108人（8月28日現在、広島県まとめ、行方不明の方4人を含まず）の尊いいのちを奪い、大切な家屋を損壊させ、甚大な被害となりました。

安芸教区内での9月25日現在の被害状況は、教区内寺院からの報告を集約しますと、上記広島県内の死亡者のうち亡くなられた門信徒の方々は71人、家屋全壊108棟、家屋半壊117棟、床上浸水789棟、床下浸水1，089棟、その他墓石倒壊、田畑冠水等多数であります。

広範囲にわたるこのたびの災害は、交通機関を遮断し、水道網を寸断し、私たちの生活の根幹を欠乏させ、孤立した地域もありました。

災害発生の翌日7月8日に通行可能な被災地へは本願寺お見舞いタオルを届け、7月10日よりは宗派より搬送されてきた水なども届けて回りました。これら飲料水の他に生活用水の不足も深刻でありました。

7月13日に、宗派に平成30年7月豪雨の「緊急災害対策本部」が設置され、併せて安芸教区に「現地緊急災害対策本部」が設置されました。そして同16日に、広島別院安芸門徒会館に「安芸教区災害ボランティアセンター」が置かれ、本格的な支援活動に入りました。9月25日現在、ボランティア925人（延べ人数）の皆さまに、被災した寺院や門信徒宅7棟をはじめ要望のありました所の土砂撤去作業等の活動をしていただいております。

4年前にも広島は土砂災害で多くの方々が亡くなられましたが、このたびもまた甚大な被害となりました。もっともっと生きたかった方々の大切な一日一日を、私たちは徒に過ごすことなく生き抜いてゆくこと、これが私たちの努めであると自らに言い聞かせています。